

2020 年度入試状況分析【国公立大】

※本文内の（ ）内の数値は志願者数の前年度確定数との対比指数を表します。

◎増減が目立った大学

□増加数最多は島根県立大、減少数最多は山口大

大学全体の志願者数の増減数が 500 人以上だった大学をまとめました。500 人以上増加した大学は 6 大学で前年度より 5 大学減少しました。設置別では、前年度は国立 8 大学、公立 3 大学でしたが、今年度は国立 3 大学、公立 3 大学と国立大の減少が目立ちました。

増加数が最も多かった大学は島根県立大で、1,677 人(229)増加しました。前年度の大幅減少の反動に加えて、比較的センター試験自己採点集計による合格目標ラインが低いことで、どうしても国公立大への進学を考える受験生の流入を招きました。次いで、公立諏訪東京理科大までが 1,000 人以上の増加でした。系統への人気が高まっている工学部の単科大学であることに加えて、比較的センター試験自己採点集計による合格目標ラインが低いことや全国から志願者が集まりやすい中期での募集も行ったことが増加要因です。

一方で、500 人以上減少した大学は 25 大学で前年度より 19 大学多くなりました。設置別では、前年度は国立 4 大学、公立 2 大学でしたが、今年度は国立 18 大学、公立 7 大学となりました。減少数が最も多かった大学は山口大で、1,564 人(78)減少しました。全学部で減少し、特に、工(69)、人文(75)、医(76)、経済(80)、国際総合科学(83)、教育(84)といった学部が大幅減少しました。以下、鳥取大、宮崎大、滋賀大、富山大、兵庫県立大、信州大の上位 7 大学が 1,000 人以上の減少でした。これらの大学は、富山大を除くと前年度増加が目立った大学です。また新潟大を除くといわゆる「地元大」で、比較的センター試験自己採点集計による合格目標ラインが低い大学です。どうしても、国公立大学への進学を考える受験生が前年度の志願状況をもとに敬遠したことが考えられます。2021 年度入試を目指す受験生には、単純に前年度の志願倍率をもとに出願校選択を行うことは、決してうまいやり方ではないことを確認してほしいと思います。

〔増加数が多かった大学〕

大学	増減数	志願者指数		志願者数		コメント
		2020年度 ／ 2019年度	2019年度 ／ 2018年度	2020 年度	2019 年度	
島根県立大	+1,677	229	78	2,974	1,297	前期、後期とも全国の国公立大で最も増加数が多かった。全学部で前期、後期とも大幅増加で、人間文化<後>(320)、総合政策<後>(308)の3倍を超える増加が影響。
公立諏訪 東京理科大	+1,501	210		2,870	1,369	前期、中期とも大幅増加。2学科とも大幅増加だが、工(機械電気工)<前>(350)は3.5倍、<中>(243)も2倍以上の激増。
島根大	+897	125	75	4,441	3,544	前期、後期とも大幅増加。法文<前>(153)、<後>(129)が前年度大幅減少の反動で大幅増加、総合理工<後>(208)も前年度半減の反動で2倍以上の激増が影響。
徳島大	+623	115	95	4,671	4,048	前期は増加、後期は大幅増加。歯<前>(143)は募集人員増加と2年連続減少の反動で大幅増加。理工<前>(120)も募集人員増加と2年連続減少の反動で大幅増加。
新潟大	+620	112	92	5,974	5,354	前期はやや増加、後期は大幅増加。農<後>(263)は4年連続減少の反動で2.6倍の激増。理<後>(230)は2年連続減少の反動で2.3倍の激増。経済科学<後>(112)は経済からの学部改組と募集人員増加で増加。
山陽小野田市立 山口東京理科大	+541	123	66	2,933	2,392	前期、中期とも大幅増加。工は<前>(143)、<中>(134)とも前年度大幅減少の反動で大幅増加。薬<中>(103)は系統の人気低下もあり、前年度大幅減少の反動は小さく、やや増加に留まった。

2020年度入試状況分析【国公立大】

〔減少数が多かった大学〕

大学	増減数	志願者指数		志願者数		コメント
		2020年度 ／ 2019年度	2019年度 ／ 2018年度	2020 年度	2019 年度	
山口大	-1,564	78	110	5,588	7,152	前期、後期とも大幅減少で、後期は全国の国公立大で1番、前期は2番目の多さだった。医(医)後(56)は募集人員減少と前年度倍増の反動で大幅減少。人文(後)(68)は2年連続増加の反動で大幅減少。
鳥取大	-1,243	76	108	3,850	5,093	前期、後期とも大幅減少。出願の際、学部により志望理由書や自己評価シートの提出が必要になったことが影響。また、医(保健)前(48)は前年度2.6倍の激増の反動でほぼ半減し、(後)(53)も大幅減少。
宮崎大	-1,218	76	116	3,893	5,111	前期、後期とも大幅減少。地域資源創成前(48)、農(前)(48)は半減以下、医(医)前(53)は前年度増加の反動でほぼ半減。地域資源創成後(44)は設置初年度から3年連続増加の反動で半減以下の大幅減少。
滋賀大	-1,172	77	129	3,865	5,037	前年度最も志願者数が増加した反動で前期、後期とも全学部が大幅減少。特に教育(後)(64)、経済(前)(71)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
富山大	-1,125	87	100	7,312	8,437	前期は減少、後期は大幅減少。工(後)(57)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。経済(前)(68)は系統の人気低下と3年連続増加の反動で大幅減少。
兵庫県立大	-1,060	85	111	5,800	6,860	前期は大幅減少、中期、後期は減少。開設2年目の社会情報科学(中)(46)の半減以下の大幅減少。
信州大	-1,035	86	105	6,383	7,418	前期は大幅減少、後期は減少。医(医)前(60)は募集人員減少と前年度大幅増加の反動で大幅減少、農(後)(55)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、経法(後)(70)は前年度2.5倍の激増の反動で大幅減少。
北九州市立大	-974	82	111	4,438	5,412	前期、後期とも大幅減少。外国語(後)(57)は前年度2倍以上増加の反動で大幅減少。法(前)(68)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。
茨城大	-878	86	114	5,561	6,439	前期は減少、後期は大幅減少。工(後)(65)は前年度1.5倍増の反動で大幅減少。人文社会科学(後)(79)は2年連続増加の反動で大幅減少。
鹿児島大	-840	86	93	5,075	5,915	前期は減少、後期は大幅減少。募集人員減少の歯(後)(39)、共同獣医(後)(68)、教育(前)(79)などが大幅減少。
県立広島大	-837	64	95	1,492	2,329	前期、後期ともに大幅減少。生物資源科学(前)(50)は生命環境から学部改組、地域創生(前)(60)は経営情報、人間文化からの学部改組でいずれも募集人員減少となり大幅減少。
山梨大	-801	80	116	3,123	3,924	前期、後期とも大幅減少。生命環境(後)(58)は2年連続増加の反動で大幅減少。教育(前)(69)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。生命環境(前)(73)は2年連続増加の反動で大幅減少。
大分大	-789	82	133	3,578	4,367	前期はやや減少、後期は大幅減少。後期(69)は全ての学部で減少だが、医(看護)(52)、教育(57)、理工(68)は前年度増加の反動で大幅減少、経済(76)は系統の人気低下もあり3年連続減少。
筑波大	-778	88	109	5,806	6,584	前期、後期とも減少。前年度は増加した学群が多かったが、その多くが減少に転じ、特に理工(後)(78)、社会・国際(前)(80)の大幅減少が大きく影響。

2020 年度入試状況分析【国公立大】

大学	増減数	志願者指数		志願者数		コメント
		2020年度 ／ 2019年度	2019年度 ／ 2018年度	2020 年度	2019 年度	
群馬大	-776	76	110	2,452	3,228	前期は減少、後期は大幅減少。宇都宮大と合同で設置した共同教育が、<前>(61)、<後>(42)とも大幅減少。医(保健)<後>(58)の大幅減少も影響。
福島県立医科大	-747	41	135	528	1,275	前期、後期とも大幅減少。医<前>(59)は後期廃止により募集人員増加だが、前年度大幅増加の反動で大幅減少。後期は医の廃止と看護(86)が2年連続増加の反動で減少となったことが影響。
岐阜大	-734	88	92	5,595	6,329	前期はやや減少だが、後期が大幅減少。後期(85)は教育(75)の大幅減少、募集人員減少の医(医)(82)の大幅減少、工(88)の減少が影響。
東京都立大	-708	92	104	7,885	8,593	前期が減少、後期はやや減少。前期(90)は、法(69)が2年連続大幅増加の反動とセンター試験平均点がダウンした3教科型受験のため大幅減少。システムデザインは<前>(82)、<後>(73)ともに大幅減少。
広島大	-668	91	102	6,616	7,284	前期、後期ともに減少。医(医)<前>(82)が前年度大幅増加の反動で大幅減少したことが影響。教育<後>(86)は4年連続減少で8年ぶりに400人を下回った。
神戸大	-644	94	100	9,315	9,959	前期、後期ともにやや減少。前期は前年度と逆の増減の学部が多かった。特に経済(79)は4年連続増加の反動で大幅減少。後期は法(63)が3年連続増加の反動で大幅減少。
北海道大	-589	94	105	9,752	10,341	前期、後期ともにやや減少。前期は前年度と逆の増減の学部が多かった。特に法(66)は2年連続増加の反動で大幅減少。後期は教育(71)が3年連続増加の反動で大幅減少。
長野県立大	-545	61	169	848	1,393	前期、中期とも大幅減少。中期(53)は、グローバルマネジメント(50)が前年度約2.3倍増の反動で半減。
富山県立大	-542	70	121	1,283	1,825	前期、後期ともに大幅減少。前期(67)は、開設2年目の看護(38)が激減。後期(77)は、工(65)が大幅減少で2009年度以降初めて200人を下回った。
九州工業大	-533	80	100	2,131	2,664	前期、後期ともに大幅減少。2学部とも減少だが、情報工<前>(72)は2年連続大幅増加の反動で大幅減少、<後>(76)は大幅減少で2年連続減少。
東北大	-514	92	94	5,738	6,252	前期は減少、後期はやや減少。教育<前>(67)は2年連続増加の反動で大幅減少。理<後>(89)は、2年連続増加の反動から減少。